公益社団法人　日本コンクリート工学会　東北支部

2023 年度（令和 5 年度）通常総会議事及び行事次第

期日　：2023 年 5 月 19 日(金)
場所　：ホテル白萩
　　および Web 会議

Ⅰ　総会　(15:00～15:40)

1. 開会宣言
2. 支部長挨拶
3. 報告
   報告 1　2022 年度事業報告及び収支決算報告について
   報告 2　2023 年度事業計画及び収支予算計画について
   報告 3　支部役員の交代について
   報告 4　支部表彰規程の改定について
4. その他
5. 閉会

Ⅱ　2022 年度研究委員会の報告(15:45～16:20)

1) 表層品質評価委員会
   活動期間：2020 年 1 月～2023 年 3 月　　委員長：武田三弘（東北学院大学）

2) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会
   活動期間：2020 年 1 月～2023 年 3 月　　委員長：子田康弘（日本大学）

3) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会
   活動期間：2022 年 4 月～2024 年 3 月　　委員長：佐藤和徳（日本大学）

休憩 16:20～16:30

Ⅲ　2022 年度日本コンクリート工学会東北支部表彰(16:30～17:00)

1) 選考結果報告
2) 受賞講演

報告１　2022 年度事業報告及び収支決算報告

(自：2022 年 4 月 1 日　　至：2023 年 3 月 31 日)

1. 会務運営

(1)　総会

・2022 年 5 月 18 日(水)　15:00～17:00　於：ホテルメトロポリタン仙台 4F
および Web 会議

(2)　支部幹事会

・2022 年　4 月 15 日(金)　15:00～17:00　於：ZOOM による Web 会議
・2022 年　9 月 30 日(金)　15:00～17:00　於：復建技術コンサルタント および Web 会議
・2022 年 12 月 28 日(水)　15:00～17:00　於：復建技術コンサルタント および Web 会議
・2023 年　2 月　6 日(月)　15:00～16:00　於：Web 会議

(3)　支部役員会（幹事会・役員会合同会議）

・2022 年　4 月 15 日(金)　15:00～17:00　於：ZOOM による Web 会議
・2022 年　9 月 30 日(金)　15:00～17:00　於：復建技術コンサルタント および Web 会議
・2022 年 12 月 28 日(水)　15:00～17:00　於：復建技術コンサルタント および Web 会議

(4)　研究委員会

・随時電子会議により開催

(5)　表彰委員会

・随時電子会議により開催

(6)　講習会運営委員会

・随時電子会議により開催

(7)　研修委員会

・随時電子会議により開催

(8)　ホームページ運用委員会

・随時電子会議により開催

2. 委員会活動

(1) 研究委員会

専門研究委員会への申請と承認が行われた 4 つの研究委員会が活動を行った。2022 年度も継続して新規研究課題を公募した。

1) フライアッシュおよびもみ殻灰のコンクリートへの有効利用に関する研究委員会
活動期間：2020 年 1 月～2023 年 3 月　　委員長：徳重英信（秋田大学）
※コロナ禍の影響により中止

2) 表層品質評価委員会
活動期間：2020 年 1 月～2023 年 5 月　　委員長：武田三弘（東北学院大学）

3) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会
活動期間：2020 年 1 月～2023 年 3 月　　委員長：子田康弘（日本大学）

4) 「東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会」
活動期間：2022 年 4 月～2024 年 3 月　　委員長：佐藤和徳（日本大学）

講習会の開催

「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会」 報告会

募集：2022 年 8 月 29 日（月）～2023 年 3 月 17 日（金）
配信：2022 年 8 月 29 日（月）～2023 年 3 月 31 日（金）
形式：Web 会議システム（ZOOM）によるオンデマンド講習会
参加費：無料
内容：
開会挨拶・趣旨説明　小山田哲也（岩手大学）
東北地整のコンクリート構造物の品質・耐久性確保の取組み　佐藤和徳（日本大学）
コンクリート構造物の品質に関する意識調査　迫井裕樹（八戸工業大学）
コンクリート構造物の品質確保への取組み　調査概要　子田康弘（日本大学）
下部工・函渠・擁壁　音道薫（上北建設）
上部工（床版工）田中喜一郎（横河ブリッジ）
上部工（場所打ち）　鶴岡俊明（日本ピーエス）
上部工（プレキャスト）　鶴岡俊明（日本ピーエス）
トンネル覆工　三井功如（西松建設）
建築工事におけるコンクリート構造物の品質確保の取組み　西脇智哉（東北大学）
総括　小山田哲也

(2) 表彰委員会

1) 支部賞募集および応募

会誌「コンクリート工学」12 月号・1 月号の会告および支部ホームページを通して東北支部論文賞、東北支部技術賞、東北支部奨励賞、東北支部作品賞の各賞の募集及び東北支部功労賞の推薦募集を行った。募集の結果、奨励賞 3 件、作品賞 1 件（その後、下記審査の過程で「応募取り下げ」）の応募があり、論文賞、技術賞は応募が無く、功労賞についても推薦は無かった。

2) 審査結果

応募に対して、「東北支部表彰規程」に則り、奨励賞、作品賞のそれぞれにおいて、表彰委員会委員各 7 名から構成した選考委員会にて、査読による審査を行った。その審査結果に基づき表彰委員会が受賞者（案）を作成し、支部幹事会・役員会が審議し、結果、以下の奨励賞 3 件が受賞にふさわしいものとして選定された。

3) 受賞対象の概要

東北支部奨励賞　応募 3 件　＊受賞対象の筆頭著者のみ記載

受賞者　下記 3 件

「高変動軸力を受ける RC 造ト形柱梁接合部の軸崩壊に影響する因子の検討」

萩原大樹（はぎわら だいき）　東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻　学生会員

コンクリート工学年次論文集 Vol.44、No.2、pp.469-474、2022

評価

本論文は、高層 RC 造建築物で大きな変動軸力が発生する外柱・梁接合部について、接合部の軸崩壊現象のメカニズムとその発生条件について検討したものである。変動軸力を加えたト形柱梁接合部部分架構の静的載荷実験を実施し、その結果から各パラメータが軸崩壊に及ぼす影響を明らかにするとともに、マクロモデルによる軸崩壊発生メカニズムを提案した。この成果は高層 RC 造建築物の耐震性向上に資するものである。

以上のことから、本論文は、「独創性・萌芽性及び将来性に富む」と認められ、東北支部奨励賞に値するものである。

「凍結防止剤散布環境下における石炭ガス化スラグを細骨材として用いたコンクリートの各種耐久性評価」

相内豪太（あいない ごうた）　日本大学大学院工学研究科 土木工学専攻　学生会員

コンクリート工学年次論文集 Vol.44、No.1、pp.1636-1641、2022

評価

本論文は、福島県等で稼働している石炭ガス化複合発電所から排出されるスラグの有効利用として、コンクリート用細骨材としての利用普及を目指し、東北地方で特に問題となる凍結防止剤散布環境下で想定される各種材料劣化に対する耐久性について実験的に検討し、スラグの置換率と耐久性等に関する有用な知見を明らかにした。この成果は，東北地方における石炭ガス化スラグの使用普及に資するものである。

以上のことから、本論文は、「独創性・萌芽性及び将来性に富む」と認められ、東北支部奨励賞に値するものである。

「ひび割れが進展する RC 部材のひずみ分布を考慮したひび割れ幅推定手法の検討」
石橋詩織（いしばし しおり）　東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻　学生会員
コンクリート工学年次論文集 Vol.44、No.2、pp.127-132、2022

評価
本論文は、RC 部材のコンクリート表面におけるひずみと内部の鉄筋のひずみからひび割れの進展過程について分析し、損傷量推定手法について検討したものである。コンクリート表面のひずみ計測やひび割れ幅の計測には画像処理を用いた手法を適用し、載荷速度が異なる実験結果を用いてひび割れ長さ・幅を含めた部材の損傷量推定手法を検討した。この成果は、RC 造建築物の性能評価型設計を行う場合に必要となる構造部材の損傷や修復性能の評価手法の発展に資するものである。
以上のことから、本論文は、「独創性・萌芽性及び将来性に富む」と認められ、東北支部奨励賞に値するものである。

4) 東北支部表彰規程の改定
現在の状況に則し、会員にとってもわかりやすく、その結果として応募者の増加にもつながることが期待できる条文への改定を検討し、改定案を作成した。
幹事会及び役員会からの意見も随時考慮しながら改定作業を行い、その結果、2023 年度の第 1 回幹事会役員会合同会議（2023 年 4 月 3 日）にて改定案が了承され、同日付で改定となった。

(3) 研修委員会

1) コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

2022 年度は 2021 年度に引き続きオンデマンド形式の勉強会として、以下の内容で実施した。

第 17 回『コンクリート診断技術研鑽のための勉強会』

募集：2022 年 10 月 13 日（木）～2022 年 11 月 29 日（火）

配信：2022 年 12 月 5 日（月）～12 月 23 日（金）

形式：Web 会議システム（ZOOM）によるオンデマンド講習会

参加費：無料

内容：

1) 開会挨拶および趣旨説明

阿波　稔　（JCI 東北支部　研修委員会委員長　　八戸工業大学　教授）

2) 講　演（各 30 分程度）

①「既存コンクリート構造物の性能評価指針について」

西脇　智哉氏　（東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授）

②「鉄筋コンクリート造建物の耐力度調査について」

西田　哲也氏（秋田県立大学 システム科学技術学部 建築環境システム学科 教授）

③「コンクリート水利構造物からの石灰石の溶脱現象について」

北辻　政文氏　（宮城大学食産業学群 食資源開発学類 教授）

④「東北地方における橋梁の劣化・損傷の現状と課題」

飯土井　剛氏　（（株）復建技術コンサルタント 構造技術部）

参加申し込み者：177 名（最終）

内訳：青森県 20 名、秋田県 4 名、岩手県 6 名

宮城県 44 名、山形県 6 名、福島県 8 名

東北地区合計　88 名

東北地区以外から

（北海道から沖縄県まで）　89 名

(4) 講習会運営委員会

1) 講習会･試験

講習会･試験の事務運営は，コンクリート診断士試験についてはJCI支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い，コンクリート技士試験は生コン工業組合主体で実施した。

2022年度　講習会・試験実施状況(JCI東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート診断士講習会	2020年度よりeラーニングによる受講に変更			
コンクリート診断士試験	7月24日(日)	東北学院大学	統括：堀 則男	JCI東北支部・ 生コン工組共同運営 責任者：小野敬則 補佐：眞山芳恵

2022年度　試験実施状況(JCI本部管轄)

コンクリート技士試験・コンクリート主任技士試験	11月27日(日)	東北学院大学	統括：皆川 浩 (1年目) 補佐：内藤英樹	生コン工組運営 責任者：小野敬則 補佐：眞山芳恵

(5) ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため，講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ウェブサイトに掲載を行った。

また6月と12月の年2回，HP全体について未更新の情報がないかチェックを行った。

支部ホームページを定期的に更新し，適宜最新の情報をホームページにアップロードしている。

年次大会2017年の参加委員を元に作成した支部メーリングリストを活用し，支部活動の周知に努めた。

URL：https://www.jci-tohoku.org/

収支決算報告　(自 2022 年 4 月 1 日　　至 2023 年 3 月 31 日)

JCI東北支部　2022年度(令和4年度)収支実績

（単位：円）

勘　定　科　目	2022実績計 A	2022予算 B	差　異 C=B−A	備考
Ⅰ．収益（収入）の部				
（1）事業収益				
講演会等収益（見学会含む）	0	1,635,000	1,635,000	講習会をオンデマンド形式（参加無料）としたため
本部よりの業務援助報酬（診断士）	275,200	300,000	24,800	
事　業　収　益　計	275,200	1,935,000	1,659,800	
（2）その他収益				
受取利息	40	0	−40	
懇親会参加費収益	0	0	0	懇親会実施せず
雑収益	35,000	0	−35,000	
本部よりの年次大会還元金	0	0	0	
本部よりの支部交付金	1,638,540	1,636,000	−2,540	
そ の 他 収 益 計	1,673,580	1,636,000	−37,580	
合　　計	1,948,780	3,571,000	1,622,220	
2．費用の部				
（1）事業費				
（1−1）公益目的事業費				
1）調査研究事業費	37,660	1,200,000	1,162,340	
2）広報事業費	19,091	15,000	−4,091	東北支部Webサイトレンタル代金
3）講演会等事業費（見学会含む）	1,553,500	2,100,000	546,500	
4）表彰事業費	40,260	100,000	59,740	
（1−2）収益事業費				
1）業務委託費（診断士業務）	220,160	240,000	19,840	報酬の80%を宮城工組へ
（1-3）その他費用	0	0	0	
事　業　費　計	1,870,671	3,655,000	1,784,329	
（2）管理費（法人会計）				
1）総会費	460,350	400,000	−60,350	
2）役員会費	54,220	144,000	89,780	
3）業務委託費（支部業務）	528,000	528,000	0	
4）旅費交通費	0		0	
5）通信費	2,220	5,000	2,780	
6）消耗品費	0	0	0	
7）手数料	9,350	10,000	650	
8）その他雑費	0	0	0	
管　理　費　計	1,054,140	1,087,000	32,860	
合　　計	2,924,811	4,742,000	1,817,189	
収　支　差　額	−976,031	−1,171,000	−194,969	
前期繰越収支差額	3,673,588	—	—	2021年度から2022年度への繰越
次期繰越収支差額	2,697,557	—	—	2022年度から2023年度への繰越

内部監査報告

内部監査報告書	提出日　2023 年 4 月 3 日
監査実施日 監査場所 監査概要 監査項目	2023 年 4 月 3 日(月)　14:00～15:00 日本コンクリート工学会東北支部事務局 2022 年度(2022 年 4 月～2023 年 3 月)の期間における日本コンクリート工学会東北支部の活動結果に対して、会計処理および業務遂行の適正性の監査を目的として、以下 2 項目について内部監査を実施した。 (1)会計監査　(2)業務監査 公益社団法人日本コンクリート工学会「支部に係わる内部監査規定」および(一社)日本内部監査協会の「内部監査基準実践要綱」に定める主な項目について監査した。
監査実施者氏名	日本コンクリート工学会東北支部　検査役　近藤 克巳
被監査者氏名	日本コンクリート工学会東北支部　出納管理者　金 貴之
(1)会計監査結果	会計処理が適正に実施されているかを監査するため、以下の項目について出納簿、記録簿、預金通帳類を閲覧、照合し、かつ出納管理者にもヒアリングを行った。それらの結果、 ①2023 年 3 月 31 日付けでの現金残高が 0 円で、支部預金口座に全て入金されていることを確認した。 ②2023 年 4 月 1 日から 4 月 3 日(監査当日)までの現金残高を実査し、出納簿および現金出納簿と合致していることを確認した。 ③出納簿と預金引出し記録および収入記録を照合し、全て合致していることを確認した。 ④支出金額、目的、領収書類を照合し、全て合致していることを確認した。 ⑤支部保有の預金通帳とその口座の印鑑が施錠設備を有する保管庫で厳重に保管されていることを確認した。 ⑥ ①から⑤までの監査結果より、支部会計は全て適正に処理されていることが確認できた。
(2)業務監査結果	支部活動が適正に実施されているかを監査するため、支部規定および関連する規定類の内容確認と、以下の項目について出納管理者に活動状況をヒアリングした。それらの結果、 ①本部から指示された支部規定が、東北支部規定として 2016 年 5 月 13 日に開催された支部総会で承認決議され、それまでの支部規定は廃止されて、新たな支部規定が施行されていることが確認された。 ②その他の東北支部独自の規定類として、「表彰規定」のみが存在することが確認された。 ③対象期間における、新たな契約の開始、廃止は認められなかった。 ④事務局委託業務を担う職員以外の雇用者は存在しないことが確認された。 ⑤支部印と支部長印が施錠設備を有する保管庫で厳重に保管されていることを確認した。また、押印が押印管理簿で適正に管理されていることを確認した。 ⑥ ①から⑤までの監査結果より、支部業務は全て適正に実施されていることが確認できた。
総評	2022 年度の東北支部の会計処理および活動状況について監査を行った結果、いずれも適正に処理されていることが確認できた。 不適正処理事項　0 件　／　改善提案事項　0 件
不適正処理事項	特になし
改善提案事項	特になし
	以上の監査結果に相違ありません。 2023 年 4 月 3 日　日本コンクリート工学会東北支部　検査役　近藤 克巳 近藤

報告２　　2023 年度事業計画及び収支予算計画

(自 2023 年 4 月 1 日　至 2024 年 3 月 31 日)

1. 会務運営

(1)　総会

・2023 年 5 月 19 日　15:00～17:00　於：ホテル白萩および Web 会議形式
　東北支部賞の表彰

(2)　支部幹事会

・年 4 回開催予定

(3)　支部役員会

・年 4 回開催予定

(4)　研究委員会

・随時電子会議により開催

(5)　表彰委員会

・随時電子会議により開催

(6)　講習会運営委員会

・随時電子会議により開催

(7)　研修委員会

・随時電子会議により開催

(8)　ホームページ運用委員会

・随時電子会議により開催

2. 委員会活動

(1)　研究委員会

2022 年度に引き続き，2 つの研究委員会が継続して活動を行う。また 2023 年度内にも新規研究委員会の募集を行う。

継続課題

1)　表層品質評価委員会
　活動期間：2020 年 1 月～2023 年 5 月　　委員長：武田三弘（東北学院大学）

2)　東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会
　活動期間：2022 年 4 月～2024 年 3 月　　委員長：佐藤和徳（日本大学）

(2)　表彰委員会

日本コンクリート工学会東北支部表彰規程に基づき，東北支部論文賞，東北支部技術賞，東北支部作品賞，東北支部奨励賞の対象者を募集し審査する。

(3)　研修委員会

第 18 回『コンクリート診断技術研鑽のための勉強会』の開催を検討する。

・ワーキンググループの開催

(4)　講習会運営委員会

講習会･試験の事務運営は，コンクリート診断士試験については JCI 支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い，コンクリート技士関連は生コン工業組合にお願いする。

また，月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦に協力する。

2023 年度　講習会・試験実施予定(JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート診断士講習会	2020 年度よりｅラーニングによる受講に変更			
コンクリート診断士試験	7 月 23 日(日)		統括：高橋 典之 (1 年目)	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営 責任者：小野敬則 補佐：眞山芳恵

2023 年度　試験実施予定(JCI 本部管轄)

コンクリート技士試験・コンクリート主任技士試験			統括：皆川 浩 (2 年目) 補佐:	生コン工組運営 責任者：小野敬則 補佐：眞山芳恵

(5)　ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため，講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ウェブサイトに掲載を行う。また 6 月と 12 月の年 2 回，HP 全体について未更新の情報がないかチェックを行う。

3.　2023 年度　収支予算計画　(自 2023 年 4 月 1 日　　至 2024 年 3 月 31 日)

JCI東北支部　2023年度(令和5年度)収支予算計画

（単位：円）

勘 定 科 目	2023予算 A	2022予算 B	2022実績	差 異 C=A−B	備考
Ⅰ．収益（収入）の部					
（1）事業収益					
講演会等収益（見学会含む）	135,000	1,635,000	0	−1,500,000	診断士技術研鑽のための勉強会135千円
本部よりの業務援助報酬（診断士）	264,000	300,000	275,200	−36,000	
事 業 収 益 計	399,000	1,935,000	275,200	−1,536,000	
（2）その他収益					
受取利息	0	0	40	0	
懇親会参加費収益	0	0	0	0	
雑収益	0	0	35,000	0	
本部よりの年次大会還元金	0	0	0	0	
本部よりの支部交付金	1,639,000	1,636,000	1,638,540	3,000	
そ の 他 収 益 計	1,639,000	1,636,000	1,673,580	3,000	
合　　計	2,038,000	3,571,000	1,948,780	−1,533,000	
2. 費用の部					
（1）事業費					
（1−1）公益目的事業費					
1）調査研究事業費	900,000	1,200,000	37,660	−300,000	研究委員会x4委員会
2）広報事業費	20,000	15,000	19,091	5,000	
3）講演会等事業費（見学会含む）	500,000	2,100,000	1,553,500	−1,600,000	診断士技術研鑽のための勉強会　と 品質確保委員会報告会
4）表彰事業費	100,000	100,000	40,260	0	
（1−2）収益事業費					
1）業務委託費（診断士業務）	211,200	240,000	220,160	−28,800	報酬の80%を宮城工組へ
（1-3）その他費用	0	0	0	0	
事　業　費　計	1,731,200	3,655,000	1,870,671	−1,923,800	
（2）管理費（法人会計）					
1）総会費	400,000	400,000	460,350	0	
2）役員会費	144,000	144,000	54,220	0	年4回開催のうち1回を対面形式として旅費を想定
3）業務委託費（支部業務）	528,000	528,000	528,000	0	
4）旅費交通費			0	0	
5）通信費	5,000	5,000	2,220	0	
6）消耗品費	0	0	0	0	
7）手数料	10,000	10,000	9,350	0	
8）その他雑費	0	0	0	0	
管　理　費　計	1,087,000	1,087,000	1,054,140	0	
合　　計	2,818,200	4,742,000	2,924,811	−1,923,800	
収　支　差　額	−780,200	−1,171,000	−976,031	390,800	
前期繰越収支差額	2,697,557	—	3,673,588	—	2022年度から2023年度への繰越
次期繰越収支差額	1,917,357	—	2,697,557	—	2023年度から2024年度への繰越

報告３　支部役員の交代について

2023年（令和5年）度　ＪＣＩ東北支部執行部名簿

2023年6月1日から

	氏　　名	勤　　務　　先
	支部長	1名
＊	阿波　稔	八戸工業大学 工学部 土木建築工学科　教授
	副支部長	1名
	千葉　博英	カイハツ産業(株)
	支部幹事	14名
	石川　和也	東北電力株式会社　土木建築部
	小山田哲也	岩手大学理工学部　システム創成工学科　社会基盤・環境コース　准教授
	小出 英夫	東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科 教授
＊	子田　康弘	日本大学 工学部 土木工学科
交	白井　茂	宮城県生コンクリート工業組合
＊	武田　三弘	東北学院大学 工学部 環境建設工学科　教授
	徳重　英信	秋田大学　大学院理工学研究科　教授
	奈良　裕	青森県コンクリート診断士会
	中平　善伸	国土交通省東北地方整備局 企画部長
＊	西田　哲也	秋田県立大学　システム科学技術学部　建築環境システム学科　教授
	西村　元男	鹿島建設(株)　東北支店
	西脇　智哉	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授
	久田　真	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
	堀　則男	東北工業大学　建築学部建築学科　教授
	支部執行委員	20名
新	足垣　雅人	UBE三菱セメント㈱　東北支店
交	石戸谷　勉	秋田県生コンクリート工業組合
	石橋　努	（株）復建技術コンサルタント
	磯上　秀一	福島県生コンクリート工業組合
	上原子　晶久	弘前大学 理工学部 地球環境学科
	菅野　秀人	秋田県立大学 システム科学技術学部建築環境システム学科 教授
新	菊田　貴恒	東北工業大学 建築学部 建築学科 教授
	北辻　政文	宮城大学食産業学群　食資源開発学類　教授
	後藤　努	ポゾリスソリューションズ(株)
	権代　由範	仙台高等専門学校 総合工学科　准教授
	澤田　浩昭	オリエンタル白石（株）　東北支店　技術部
	内藤　英樹	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻
	新田　裕之	東北コンクリート製品協会
	袴田　豊	岩手県生コンクリート工業組合
	樋本　智	東日本高速道路（株）　東北支社 技術部
	緑川　猛彦	福島工業高等専門学校 建設環境工学科
	皆川 浩	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 准教授
	宮林　篤	山形県生コンクリート工業組合
	山本　覚	青森県生コンクリート工業組合
	渡邉　弘子	月の泉技術士事務所
	検査役	1名
5月末まで	近藤　克巳	清水建設(株)　東北支店　土木技術部
6月から	小出　太朗	清水建設(株)　東北支店　土木技術部
	本部理事	1名
＊	阿波　稔	八戸工業大学 工学部 土木建築工学科　教授
	顧　問	11名
	三浦　尚	東北大学　名誉教授
	三橋　博三	東北大学　名誉教授
	大塚　浩司	東北学院大学 名誉教授
	田中　礼治	東北工業大学 名誉教授
	井上　範夫	東北大学　名誉教授
	鈴木　基行	東北大学　名誉教授
	月永　洋一	八戸工業大学 名誉教授
	遠藤　孝夫	東北学院大学 名誉教授
	前田　匡樹	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻　教授
	石川　雅美	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
	岩城　一郎	日本大学 工学部 土木工学科 教授
＊	武田　三弘	東北学院大学 工学部 環境建設工学科　教授
	事務局	
	飯土井　剛	(株)復建技術コンサルタント　構造技術部
	鈴木　秀寿	(株)復建技術コンサルタント　構造技術部
	金　貴之	(株)復建技術コンサルタント　総務人事部

※：役割変更　　新：新役員　　交：異動等により交代

2023年(令和5年)度　JCI東北支部専門委員会委員名簿

2023年6月1日から

専門委員会	研究委員会		研修委員会		表彰委員会	
委員長		久田　真	新	子田　康弘		小出 英夫
副委員長				奈良　裕		西脇　智哉
委員		阿波　稔		磯上　秀一		石川　和也
	新	西田　哲也	新	菊田　貴恒		小山田　哲也
			交	小出　太朗		上原子　晶久
				千葉　博英		菅野　秀人
			交	白井　茂	交	小出　太朗
				袴田　豊		子田　康弘
			交	石戸谷　勉		権代　由範
				宮林　篤		徳重　英信
				山本　覚		西田　哲也
						西村　元男
					新	皆川 浩

専門委員会	講習会運営委員会		HP運用委員会		支部執行部候補者推薦委員会	
委員長		堀　則男		西脇　智哉		
副委員長	交	白井　茂				
委員		北辻　政文		金　　貴之		
				宮本　慎太郎		

※：役割変更　　新：新役員　　交：異動等により交代

報告４　支部表彰規程の改定について

公益社団法人　日本コンクリート工学会　東北支部　表彰規程

制定　平成 10 年
改定　平成 16 年 10 月　6 日
改定　平成 17 年 11 月　2 日
改定　平成 30 年　4 月　11 日
改定　令和 3 年 10 月　5 日
改定　令和 5 年　4 月　3 日

１．目的

本規程は、東北支部所属の個人会員（以下、「支部個人会員」と呼ぶ）や団体会員（以下、「支部団体会員」と呼ぶ）によるコンクリートに関する優れた研究や業績、東北支部の活動への貢献と功労に対し表彰を行い、その成果を讃えるとともに日本コンクリート工学会東北支部の活性化を図ることを目的とする「東北支部賞」について定める。

２．東北支部賞の構成

東北支部賞は、以下の各賞により構成される。

◎東北支部論文賞

原則として支部個人会員や支部団体会員が直接関与した、コンクリートに関する特筆すべき成果をまとめ、学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をなしたと認められる論文を対象とし、その著者を受賞者とする。ただし、受賞の対象となる論文が複数の場合は、該当するすべての論文に共通の著者を受賞者とする。なお、受賞者のうち少なくとも一人は、支部個人会員とする。また、過去に東北支部賞の他の賞を受賞している場合は、そこに含まれている論文を、受賞対象の論文に含めることはできない。

◎東北支部技術賞

東北地方におけるコンクリート構造物の新設工事、維持・修繕工事、補修・補強工事、改修工事等に関する報告（テクニカルレポート、工事記録等）のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなしたと認められる報告を対象とし、その著者を受賞者とする。ただし，受賞の対象となる報告が複数の場合は、該当するすべての報告に共通の著者を受賞者とする。なお、受賞者のうち少なくとも一人は、支部個人会員とする。また，過去に東北支部賞の他の賞を受賞している場合は、そこに含まれている報告を、受賞対象の報告に含めることはできない。

◎東北支部作品賞

コンクリートで構成され、その美的価値や技術的価値、独創性及び周辺環境との調和において、優れていると認められる東北地方に造られた造形物（土木構造物、建築物及び一般造形物）を対象とし、その構築に貢献した者を受賞者とする。

◎東北支部奨励賞

コンクリートに関する独創性、萌芽性及び将来性のある優れた論文又は報告（テクニカルレポート、工事記録等）を対象とし、投稿した時点または発刊された時点で「40 歳未満の原則として支部個人会員」で、筆頭著者を受賞者とする。すでに東北支部奨励賞を受賞したものは、重ねて同一の賞の受賞者となることはできない。また、過去に東北支部賞の他の賞を受賞している場合は、そこに含まれて

いる論文又は報告を、受賞対象の論文又は報告に含めることはできない。

◎東北支部功労賞

学会活動に対する以下の①または②に示す功労者を対象とする。ただし、すでに東北支部功労賞を受賞したものは、重ねて同一の賞の受賞者となることはできない。

①『東北支部の発展に貢献した会員』

日本コンクリート工学会の正会員として 30 年以上在籍し、東北支部活動に貢献した者。

②『東北支部活動に著しい功労のあった会員』

原則として支部長以下の支部執行部経験者や研究委員会委員長等を務めた日本コンクリート工学会の正会員または団体会員に所属する個人で、東北支部活動に顕著な功績が認められる 60 歳を超えた者。

３．受賞対象の論文、報告及び造形物の資格

受賞対象となる論文、報告は、募集年度を含めた過去 2 年間に刊行された「コンクリート工学論文集」、「コンクリート工学年次論文集」、会誌「コンクリート工学」、「Journal of Advanced Concrete Technology (ACT)」および JCI 主催シンポジウムの論文集に限り、その業績が評価できるものとする。

東北支部作品賞の受賞対象となる造形物は、原則として募集年度末 3 月 31 日を基準とした過去 2 年以内に竣工されたものとする。

４．募集・応募

東北支部論文賞、東北支部技術賞、東北支部作品賞及び東北支部奨励賞の募集は、表彰委員会が公募の周知を行う。

東北支部論文賞、東北支部技術賞、東北支部作品賞及び東北支部奨励賞への応募は、支部個人会員、支部団体会員及び支部団体会員に所属する個人の自薦または他薦とし、募集年度の 1 月 31 日までに推薦書を添えて申し込むものとする。なお、東北支部作品賞の応募に際しては、事業者・設計者・施工者の同意を得るものとする。

東北支部功労賞の募集は行わない。

５．審査・表彰方法

東北支部論文賞、東北支部技術賞、東北支部作品賞及び東北支部奨励賞への応募に対し、東北支部表彰委員会にて審査を行う。

東北支部表彰委員会の審査結果に基づき、支部幹事会で審議し表彰を決定する。

東北支部功労賞は、支部幹事会にて受賞候補者を選定の上、審議し表彰を決定する。

表彰は翌年度の日本コンクリート工学会東北支部通常総会で行い、賞状及び副賞を授与する。

（付則）

この規程は令和 5 年 5 月 19 日から施行する。

以上